

KSKP

たびだち つうしん

出

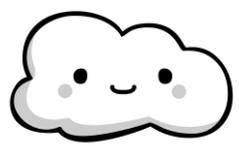
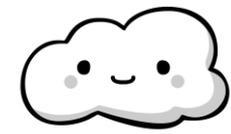
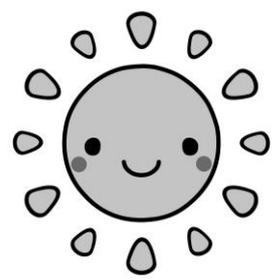
発

通

信

154号

NPO法人 出発のなかまの会



一九八四年 八月二十日 第三種郵便物認可  
毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日) 発行

もくじ  
目次

みなみそうまし ほうもん 南相馬市を訪問しました	2
ねんだい こ つと たの 年代を超えて集う楽しみ	3
あら きよてん む 新たな拠点づくりに向けて	4
せんきよ い 「選挙あかん！行きません！」	5
しんぶん ごう どんどん新聞121号より	7
こそだ にっき スタッフ子育て日記	8
わたし ちいき く 私たちは地域で暮らしているんだ	9
ねん どそうかい し 2015年度総会のお知らせ	10
ねん どしんにゆうしょくいんしょうかい 2015年度新入職員紹介	11
かつどう 活動のあと	12

みなみそうまし ほうもん  
南相馬市を訪問しました

ねん がつ にち にはくみっか こうてい ふくしまけんみなみそうまし ほうもん  
2015年2月13日から2泊3日の行程で福島県南相馬市を訪問しました。

3.11 からもうすぐ4年になろうとしており、東北のことは自分の頭の中でもすみっこの方へと追いやられていました。今回訪問させていただき、震災や原発事故からの復興はまだまだ終わっておらず、手つかずの地域も多く、いまだに困難を抱えながら暮らしている方々が大勢おられることに改めて衝撃を受けました。また、大変な状況の中でも踏ん張って生活をされている方たちと会い、話を聞かせてもらい、逆に力を頂いた2泊3日でした。

しょにち おおさか せんだいくうこう い ふくしまけんみなみそうまし いどう ほうじん  
初日は、大阪から仙台空港へ行き、レンタカーで福島県南相馬市へ移動し、NPO法人「さぼーとセンターぴあ」の生活介護事業所「ぴーなっつ」さんへ伺いました。施設長のKさんより、障害者の方の震災時の状況、避難所や仮設での生活の大変さを聞かせていただきました。また、震災後すぐに安否確認に走り回ったこと、ストレスを抱える避難生活が限界にきていた為に早くに開所したことを聞かせてもらいました。仲間に会える喜びや当たり前前に暮らすことの大切さを教えられました。

しゅくはくさき みなみそうまし けんこうふくしふちよう き どうじ しょうきょう はなし  
宿泊先に南相馬市の健康福祉部長だったSさんに来ていただき、当時の状況の話をしていただきました。個人情報である要援護者の名簿を開示されたとのことについて賛否はあったようですが、安否確認がいち早くされてきたことは、やはりよかったことなのではないかと僕は思いました。避難計画の大切さを教えていただきました。

ふつかめ つなみ およ やきゅうじょう い おお かた な  
2日目は、津波が押し寄せた野球場へ行きました。多くの方が亡くなっており、ネットをよじのぼった方は生きのびたとのこと。言葉にならない思いがこみ上げてきました。午後は語り部のTさんに会い、地域の情報から子供の震災後の心の様子や放射線の影響のことなど多岐にわたって話していただきました。また、福島第1原発の近くの居住制限地域は、工事の方や関係者しか入れず手つかずのまま放置されているようでありました。帰りたくても戻れない、戻ったとしても仕事がないので生活ができず、身動きができない状態にさらされていていかんともしがたい地域の皆さんの苦悩は計り知れないものを感じました。

さいしゅうび ふくしまけん なかとお ほうめん ふたた みなみそうま はい かせつじゅうたく せいかつ  
最終日は福島県の中通り方面からまわり、再び南相馬市へ入りました。仮設住宅で生活されている方たちを急遽訪問できることになりました。仮設の団地は避難してきた地域ごとでわかれているとのことで、当日は仮設に移って初めて餅つきをされたとのことでした。ふらりと来た僕たちにお餅やお酒を振る舞っていただきました。突然の訪問にも関わらず、話をしていたいただき本当にありがたいことでした。「大変さもあるけど頑張っているんだよ」「目

「前の人をまず大切にしてほしい」「この状況をもっと人に伝えてほしい」など切実な  
おも 思いを聞かせていただきました。

本当は人には言えないような苦しさや生きていくつらさや問題もあるのですが、それで  
も会う人はそれぞれ笑顔を見せて下さいました。温かい、強い人たちでした。

最後に南相馬市小高病院の再興に尽力されているNさんに感謝いたします。素晴らしい  
ひとひと 人々との出会いをつくっていただきました。ありがとうございました。 (サトシ・M)



### 年代を超えて集う楽しみ



3月某日、今年度30、40、50歳を迎えたメンバーとスタッフでお祝いする「節目の会」を  
開催しました。昨年「40歳のお祝い会」の盛況を見ていたNさんは「自分の番がきた！」と  
ばかりにこの日を心待ちにしていたそうです。

ジュースで乾杯したあと、サイコロを振って出た目の質問に答える「サイコロ自己紹介」  
をしました。「好きな〇〇を叫んでください」という質問にTさんは、最近お気に入りのヘル  
パーの名前を叫び「え〜っ」と皆から驚かれ突っ込まれていました。その他、悪戦苦闘しな  
がらも皆で「歳の数だけ〇〇ゲーム」に挑戦しました。

年代別カラオケコーナーでは、30歳の女性3人で「さんぽ」を歌いました。ひまわりの花を  
持ち足踏みする等、音楽に合わせて振り付けも披露しました。40歳は金色のハチマキを頭  
巻き、近藤真彦の「ギンギラギンにさりげなく」を熱唱しました。Nさんのパワー溢れる歌声  
に、観客は大爆笑していました。50歳のKさんは、持参した水戸黄門の衣装に着替え「人生  
楽しくや苦もあるさ」を照れながらも、凛として歌いきりました。

お祝いの大きなケーキには皆の名前が書かれており、「すごい!」「かわいい」等の歓声  
あがりました。全員で「ハッピーバースディ・トゥ・ユー」を歌いました。

最後にお祝いのメッセージカードを受け取ると「わあ〜い」「見て〜」と喜びの声と共に、  
見せ合いっこが始まりました。皆さん大事そうに持って帰りました。

年代を超え皆さんが笑顔で楽しんでいる様子を目の当たりにし、私自身が元気をもらいま  
した。40代2年目の新人ですが、これからもメンバーと共に笑顔が溢れる時間を過ごしたいと  
おも 思います。 (アツコ・S)

あら きよてん む  
**新たな拠点づくりに向けて**



昨年 12 月、生野区 巽 西に約 100 坪の土地を購入しました。ここにどんぐり作業所（生活介護）と会事務局、ヘルパー派遣事業所を移転する予定です。

当会が作業所をはじめて 25 年、当時は学校卒業後の重度知的障害者が通える場所はほとんどなく、「障害があっても、地域で共に働く場を」と“働く場”として位置づけられました。その後、当事者活動を積極的に支援し、作業以外の“活動”にも取り組んできましたが、ここ数年、転倒等で骨折する人が何人も出たり、作業所に通う意欲がわかず日中もグループホームで過ごす人がいたり、と今後の作業所のあり方について考え直さざるを得ない状況が生まれています。また、地域社会の問題も山積しています。福祉サービスは少しずつ拡充してきましたが、サービスにうまく当てはまらない人、たとえば孤立しがちな高齢者、就労が困難な若者、支援を受けられないひとり親世帯、子どもの貧困等々、生活の困難さは“見えにくい”形でどんどん広がっています。

これまで、私たちは“当事者活動”から多くのことを教えてもらいました。抑圧された人たちが声をあげるには、まずは「声をあげていいんだ」「表現していいんだ」と思える、安心できる場が必要です。今回、新しい作業所を建設するにあたって、メンバーにも参加してもらって“作業所のサービスをよくする会議”をおこない、さまざまな意見をもらいました。「雨の日に玄関が濡れて困る」「（夏は）暑い、（冬は）寒い」「下駄箱がくさい」「階段が怖い」「静かな部屋が欲しい」などのハード面に加え、「スタッフはもっと勉強してほしい。すぐに『わからない』と言わないでほしい」「スタッフには自分たちのことをわかってほしい」などソフト面への厳しい意見もあり、当事者の思いから出発することの大切さを改めて感じさせられました。新しい作業所に活かすこと、今すぐに取り組むことに分けて整理し、改善をすすめています。

新しい作業所のコンセプトは、“自分らしく働くことで地域とつながる”“それぞれに活躍できる活動がある”の 2 つです。変化を苦手とするメンバーが多い中、新しい作業所がまずは安心し、心地よく過ごせる“居場所”となること、そして自分のペースを守りつつ、それぞれが輝きながら地域とつながっていく活動を展開するためには工夫が必要だと感じています。メンバーと地域を歩きながら、地域の“ちょっとした困りごと”にアクセスできるような活動を考え、シーツなど大きな物の“洗濯サービス”をはじめられないかと検討中です。

私たちも地域の一人として、地域に住む“当事者”として、目の前のことに関心を持ち、少し

ずっと動きながらまわりの人々（ひとびと）とつながっていきけるような取り組みをはじめなくてはなりません。“専門家”（せんもんか）でなくていいのです。“生きにくさを抱えた当事者”（いきにくさをかかとうじしや）たちがつながり、ほんのちょっとずつ力（ちから）を出し合いながら“誰もが住みやすい、排除（はいじよ）されない社会（しゃかい）づくり”をすすめていくための拠点（きょてん）になればと思っています。

（ミサオ・K）



「選挙（せんきよ）あかん！行きません！」



先日（せんじつ）の統一（とういつち）地方選（ほうせん）でのこと。どんどん会議（かいぎ）（＝当事者（とうじしや）活動（かつどう）の会議（かいぎ））で選挙（せんきよ）が話題（わだい）にのぼると、「行きません！」（い）と一人（ひとり）暮らし（ぐらし）のNさん。生まれた（うまれた）時（とき）から日本（にほん）に住（す）んでいるもの（もの）の外国籍（がいこくせき）のため（ため）選挙権（せんきよけん）のないKさんは、私（わたし）、選挙権（せんきよけん）ないのに。あるなら（あるなら）行（い）こうや」と不満（ふまん）そうです。私（わたし）も「行きましようよ」と（い）言い、いろいろNさん（に）話（はなし）を聞（き）いていくと「A小学校（しょうがっこう）あかん。お母（かあ）ちゃん、B小学校（しょうがっこう）」（い）と言（い）います。どうやら、母校（ほこう）のB小学校（しょうがっこう）ではなく、現在（げんざい）の居住地（きょじゅうち）のA小学校（しょうがっこう）に投票（とうひょう）に行く（い）ことが納（な）得（とく）いかず、今（いま）まで選挙（せんきよ）に行（い）っていなかつたよう（よう）なのです。それなら、と期（き）日（じつ）前（まえ）投票（とうひょう）で一緒（いっしょ）に区役所（くやくしょ）に行く（い）ことにしました。

投票案内状について尋ねると、「ゴミ箱。A 小学校あかん」と、「捨てた」と言う N さん。  
 投票所に行き、入口で名前、生年月日、住所を記入しないといけません、ここでも実家の住所を記入されました。現在住んでいる家の住所はうろ覚えだったため、グループホームに電話して住所を尋ねるというバタバタな感じでしたが、無事に投票用紙をもらいました。付き添っていった私は中に入れなかったため、係員に案内され、記入場所へ行き、「名前を書いてください」と言われると、N さんは「N▼※◎・・・」と大きな声で自分の名前を言っています。N さんは構音障害があるため、初対面の人は N さんの言葉を聞き取るのは難しい状態です。私は内心「あ、どうしよう」と焦りましたが、係員に「この前に貼っている名前を書いてくださいね」と言われ、「◎・△・★・※」と大声で候補者の名前を言いながら書いておられたようで、ほっと安心しました。

ところで、住所がわからずにグループホームスタッフからの電話を待っている間、N さんが投票所の中を見て、「5 月。大阪府大阪市。選挙。大阪市なくなりません。ハ・イ！生野区なくなりません。」と手を上げて言い出しました。「ハ・イ！」と言いながら手を上げるのは、N さんが「言いたい！」という意味表示のときに使われる表現です。5 月の“大阪都構想”の住民投票のこともちゃんと知っておられたんですね。今回投票したことで選挙で投票する見通しが持て、“住民投票にも行きたい”ということなのでしょう。N さんが社会状況に関心を持ち、参画意欲が高いのにもかかわらず、これまで“投票”という行為にアクセスできなかったのは、私たち支援者が N さんの「行きません！」という言葉の先にある思いに寄り添えなかったからだと深く反省させられました。

どんどんではこれまで、自分たちの権利をつくり出すにはまず、『“いや”なことは“いや”と言おう』と言い続けてきました。抑圧を強いられてきた人たちが『NO!』と表現するのは大変なことです。そして、その『NO!』を真摯に受け止め、なぜ彼らが『NO!』と表現するのか、どんな思いで表現しているのかに寄り添うことがコミュニケーションの出発点であり、コミュニケーションができないところに“情報提供”など成立しないのだと改めて感じさせられた出来事でした。

(ミサオ・K)

©とんとん新聞 No.121 から抜粋して掲載しています

## とんとん新聞 No.121



発行日 2015 年 3 月 4 日

発行者 自立生活センター・とんとん

大阪府生野区田島 1-10-30

tel 06-6758-6641 fax 06-6758-6749



## ひと暮らしの話をしました!

日時:2014 年 12 月 14 日(日) 場所:市民交流センターすみよし南

### ◆ひと暮らしっていい!

N さんと K さんが、障大連主催の自立セミナーで講師として「ひと暮らし」の話をしました。N さんはかなり気合いが入っていたようで、当日はトップバッターで会場に来ました。講演中は、スライドの写真を見ながらひと暮らしの話をしました。得意料理は「天ぷら、からあげ!」と言った瞬間、会場が「オー」とどよめきました。趣味の H O 模型や鉄道カフェの話もしました。毎月必死で電卓をたいて計算していること、節約して模型を購入していることなどを話すと会場から「なるほどな～」と声があがりました。

K さんは、グループホームで生活していた時、支援者に「フロ入り!」と言われるのが嫌だったという話をしました。聞いていた人達からも「そら、そうやな」と納得の声があがりました。一人暮らしをしたことで、今は、自分のタイミングでテレビや風呂を楽しんでいると笑顔で伝えると会場から拍手がおこりました。

講演を聞いて、ひと暮らしに興味を持つなかまが一人でも増えてほしいと思います。

### ◆講演の感想

ぶんか なか つく はなし えいちおー はな てつ はな  
文化の中でごはん作る話 しました。H O ゲージ話 しました。鉄カフェ話 しました。(N さん)

すぎもとちよう ぐ こうえん い ちい とき はなし  
杉本町にひと暮らしの講演に行ってきました。小さい時の話をしました。

こづかい まいち い かね あ ひと  
こづかい毎日つけていると言いました。お金合わない人もいました。(K さん)

こそだ にっき  
スタッフ子育て日記



長女は幼少期から病気がちで不明熱や肺炎、川崎病と何度となく入院を繰り返し、かかりつけ医からは「病院の柱の一本はAちゃんのおかげやなあ。」と言われたくらい病院にも通院した。一方、次女はほとんど病気がしい病気もせず、保育園もほぼ休まず、熱をだして呼び出されることも少なかった。そんな次女が、2月の中頃から「痛い。」とお腹を押さえたりしていた。便秘気味なこともあって、便が出ていないからではないかと軽く考え、さほど気にと留めていなかった。

ところが、先に長女が学校からクラブを休んで帰ってきて熱があるということになり、病院に行くことになった。次女も一緒に診てもらった。長女は軽い肺炎だった。次女はその日点滴をしてもらって大丈夫だろうと思っていたが、翌日通院して「盲腸かも。」と診断を受け、すぐに小児外科のある赤十字病院に行くことになった。次女にとって“憧れ”の入院生活が決まったが、盲腸ならば「手術」をしないといけないということに、“憧れ”は一気に“恐怖”にかわった。ハッキリと診断がくだされるまで、泣き続けていたらしい。

結果は「腸炎」というものだった。手術はしなくてよくなり抗生剤を点滴する治療になった。「手術」の“恐怖”は消え、“憧れ”の入院生活がはじまった。エコーで調べてもらった際には、「これだけ腫れていたら、普通は泣き叫ぶよ。我慢強いんやなあ。」と子供は褒められたが、痛いと言っていたことを安易に受け止めていた自分（親）の心は痛く、腫れていた。

入院生活中は次女には交代で付き添い、家で残っている長女の弁当の用意や炊事等二重の生活になった。私が次女に付き添っている間、あまり会話らしい会話をすることが出来なかった。次女からは文句もよく聞いた。“憧れ”の入院生活も長くなってくると退屈になり、感染の疑いもあるということだったので、診察・検査以外は病室から出ることが出来なかった。妻からは、「退屈になってきてあたるどころがないからあたってんやわ。」と言ってもらえた。

退院前日にどうしても付き添いが出来なくなることがあった。次女はおそらく精一杯の強がり「大丈夫。」と我慢強さをみせた。長女の食事の用意や翌朝の学校への送り出しをしないといけない妻に対して「早く家に帰り。」と気遣いをみせた。しかし、その日の深夜、夜勤をしていた私の携帯電話が着信した。入院している次女からの電話だった。泣き声で何を言っているのかほとんど聞き取れなかった。ゆっくりと時間をかけて聞くとシーンと静まりかえった病室でたった一人、暗い部屋の中で“孤独”と“恐怖”にたえていた寂しさの放出だった。

その後も何度か着信があった。すぐにでも飛んで行きたかったが、それは出来なかった。話をしているとおちつくのだったらずっと朝まで話しをしてもいいよというようなことを話して、気持ちはずっとそばにあることを伝えた。結局、妻が夜中に病院まで走ったが、次女は泣き疲れて朝まで寝ていた。そして翌日無事に退院することが出来た。

今回の出来事でたくさんの人に協力してもらい、仕事もカバーしていただいた。いろいろな人に支えられながら、私たち家族も暮らせている。この場をかりてお礼申し上げます。

「親」らしいことは何一つ出来なかったようにも思う。でも、次女との「距離」は今回のことを通じて少し縮まったように感じる。私にとっても貴重な体験であり、少しは子供の気持ちに寄り添えたのであれば何よりである。

(トオル・Y)



## 私たちは地域で暮らしているんだ !?

グループホーム和楽苦荘で暮らしている T さんは 20 年以上八尾市にある工場で働いています。毎朝早くに和楽苦荘を出てバスと地下鉄を乗り継いで出勤しています。

そんな 3 月のある日、出勤途中に財布を落としてしまいました。財布をなくしたことに気づいた T さんは、その日の晩にお母さんに相談をしました。お母さんからは警察に紛失届を出すように言われたそうですが、警察には怖いイメージしかない T さんは警察には行きませんでした。グループホームのスタッフが、大阪市営地下鉄に問い合わせしてみると、幸運な事に財布がなんばの忘れ物センターにあることがわかりました。

そのことを T さんに伝え、翌々日に一緒に取りに行く約束をしたのですが、早く財布を取り戻したい T さんは約束の日まで待てず、翌日一人でなんばに行きました。しかし、なんばは広く一人では忘れ物センターを探すことができず諦めて帰ってきました。残念そうな T さんでしたが、こちらは T さんの行動力に驚かされました。

財布は次の日スタッフと一緒に取りに行き、無事戻ってきて、一安心の T さんでした。すったもんだの数日間でしたが、お互い良い経験になりました。

(シンペイ・H)

## ねんどそうかい し 2015年度総会のお知らせ

これまで本当に多くの方々に支えていただき、出発のなかまの会は、設立35周年を迎えることができました。深く感謝いたします。そして、この節目の年に大阪市の認定を受け、2014年7月11日より『認定NPO法人』になることができました。皆さまご協力ありがとうございました。これからも、法律や制度がどうであれ、『地域で支援を必要としている人』に必要な支援ができるように、『生きにくさを抱えた人』が社会から孤立することがないように、当事者の方や地域の方と共に、志高く、日々の活動を積み重ねていきたいと思っております。2014年度の活動をふりかえり、新たな活動をスタートさせる総会を開催いたします。会員の皆様、是非ご参加ください。

日時 : 2015年5月23日(土) 10時30分~12時30分

場所 : KCC会館(大阪市生野区中川西2-6-10)

会員、寄付者として出発のなかまの会の活動をご支援ください

◆正会員・・・活動を支援し、総会に参加して下さる個人の方  
会費3,000円+通信送料300円 計3,300円

◆寄付者・・・活動を支援して下さる個人・団体の方  
寄付3,000円+通信送料300円 計3,300円

★認定NPO法人として認定されましたので、当会へのご寄付は、税制上の優遇措置【所得税・個人住民税(大阪市内にお住まいの方のみ)】を受けられるようになりました。今後も続けていくためには、年間3,000円の寄付者が毎年100人必要です。ご協力をお願いします。

◆購読者・・・出発通信を購読して下さる方 購読料500円

☆振込先：郵便振替 00910-9-306080

特定非営利活動法人 出発のなかまの会

※すでに会費、寄付金をお支払いいただいた方にも事務作業の都合で振込用紙を同封しますが  
お許しください。

※通信の郵送が不要の方はご一報ください。

ねんとしんにゆうしょくいんしょうかい  
2015年度新入職員紹介



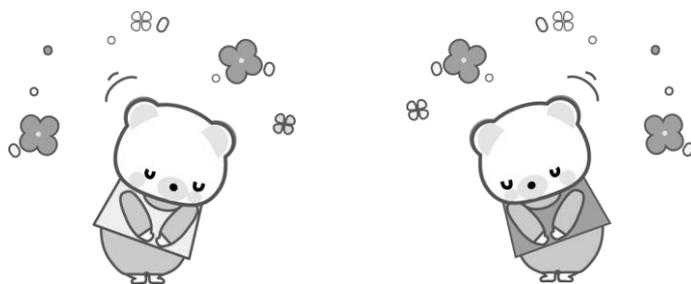
ひさまつ しょうこ  
久松 祥子さん

がつ せわ ひさまつしょうこ ようしょうき かぞく す けいけん  
4月からお世話になります、久松祥子です。幼少期に家族でベトナムに住んでいた経験から、  
だいがくいん こくさいきょうりょく まな  
大学院で国際協力について学びました。

さいきん ねんかん くに りゅうがく しょうがいしゃ かたがた  
最近では1年間、 Bangladesh という国に留学し、障害者の方々が NGO にどのように  
しえん けんきゅう けっか にほん いくのく しょうがいしゃ ふく おお ひとびと こんなん  
支援されているのかを研究しました。結果、日本や生野区で障害者を含む多くの人々が困難  
ちやくめん つうかん たびだち かい じつ だいがく かいせい  
に直面しているということを痛感しました。出発のなかまの会には、実は大学1回生だった  
2008年の冬からボランティアでお世話になっています。とっても大好きな団体、人々と共に  
はたら いただ たいへんうれ おも  
働かせて頂くことを大変嬉しく思っています。これからどうぞよろしくお願い致します。

こだま わかな  
児玉 和奏さん

しがつ ほうじんたひだち かい いっしょ かつどう こだまわかな  
四月から NPO 法人出発のなかまの会で一緒に活動させていただきます、児玉和奏といいま  
す。ちしき けいけん すく これからスタッフの方やメンバーの方に質問させていただき機会も  
おお たくさんおち ねが おし  
多くなるかと思いますがよろしくお願ひします。教えていただいたことや、これから経験させ  
ていただくことを、きゆうしゅう じしん こうどう はんえい つと おも  
どんどん吸収し自身の行動に反映できるよう努めていきたいと思ひます。  
わ じぶん とく い おお じしん ほんしん はや しょくむ な  
分からないことや自分が得意なことなど、多くのことを自身から発信し、早く職務に慣れるよ  
うかつどう おも ねが  
う活動していこうと思ひますのでよろしくお願ひします。



おれい  
御礼

ねん がつ いくのほうじゅかいさま まんえん きふ  
2015年3月に生野褒綬会様より7万円を寄付していただきました。寄付金は松野農園の  
れいそうこうにゆうひ あ  
冷蔵庫購入費に充てさせていただきました。ありがとうございました。

活動のあと

12/17 食と農のプロジェクトをすすめる会 生野区グループホーム連絡会	2/18~20 実習受け入れ(大阪 YMCA 国際専門学校)
12/19 桃谷高校講演(どんどん)	2/19 生野区学童期の子ども支援連絡会 生野区自立支援訪問系事業者連絡会
12/19 WA ロン 地域共生ケア生野推進委員会役員会	2/20 WA ロン
12/21 みらくるクラブ(もちつき)【松野農園】 食と農のプロジェクトイベント(音楽会)【松野農園】	2/22 グループホーム学会プレ集会議講演
12/22 事業所ネットワーク全体会議第1グループ会議 作業所のサービスをよくなる会議②	2/23 事業所ネットワーク全体会議第1グループ会議 作業所ミーティング
12/24 関西大学講演(どんどん)	2/25 被災地支援職員研修報告会
12/25 Kさん自立に向けての会議 生野区自立支援訪問系事業者連絡会	2/26 Kさん IFP(個人将来計画)会議
12/26 内部研修(精神医学の勉強会) Iさん IFP(個人将来計画)会議	2/27 内部研修(精神医学の勉強会)/障大連運営委員会 地域共生ケア生野推進委員会役員会
12/25 Kさん自立に向けての会議 生野区自立支援訪問系事業者連絡会	2/28 インクルーシブライフ協会講演講師(どんどん) 知ろう!助け合おう!みんなの防災 Part II (生野区自立支援訪問系事業者連絡会)
12/26 内部研修(精神医学の勉強会) Iさん IFP(個人将来計画)会議	3/1 みらくる学習会
12/26 障大連運営委員会	3/3 Kさんケア会議①
12/25 Kさん自立に向けての会議 生野区自立支援訪問系事業者連絡会	3/5 どんどんプロジェクト会議 生野区自立支援訪問系事業者連絡会世話人会
12/26 内部研修(精神医学の勉強会) Iさん IFP(個人将来計画)会議	3/6 Kさんケア会議②/人権研修①/契約更新手続き
12/26 障大連運営委員会	3/7 節目のお祝い会
1/7 執行委員会	3/8 食と農のプロジェクトイベント(作品展)【松野農園】
1/8 生野区自立支援訪問系事業者連絡会世話人会	3/9 人権研修②
1/9 グループホームスタッフ全体会議 内部研修(精神医学の勉強会)	3/10 知的障害者ガイドヘルパー養成講座講師(松原高等学校)
1/10 食と農のプロジェクトイベント(芋煮会)【松野農園】	3/10 喀痰吸引に関する安全委員会 Nさん IFP(個人将来計画)会議
1/13 内部研修(発達障害勉強会)	3/11 執行委員会/生野区学童期の子ども支援連絡会 生野区グループホーム連絡会世話人会
1/14 生野区グループホーム連絡会世話人会	3/12 生野区自立支援訪問系事業者連絡会
1/15 桃谷高校講演(どんどん) 生野区自立支援訪問系事業者連絡会	3/13 グループホームスタッフ全体会議
1/16 出発通信発送/WA ロン/障大連大阪市ブロック会議	3/14 見学受け入れ(放課後等デイサービス表の子)
1/19 作業所のサービスをよくなる会議	3/15 みらくるクラブ(あそぼうパン作り)【鶴見緑地公園】
1/20 どんどん学習会/自立支援協議会	3/15 実習受け入れ(大阪 YMCA 国際専門学校)
1/21 食と農のプロジェクトをすすめる会	3/16 作業所のサービスをよくなる会議
1/22 Hさん IFP(個人将来計画)会議 生野区学童期の子ども支援連絡会	3/16 見学受け入れ(NPO法人ほおずきの会)
1/23 地域共生ケア生野推進委員会 内部研修(精神医学の勉強会)	3/17 内部研修(発達障害勉強会)/自立支援協議会
1/23 障大連運営委員会/どんどん新年会	3/18 Oさん IFP(個人将来計画)会議
1/26 Kさん応援会議/作業所ミーティング 事業所ネットワーク全体会議第1グループ会議	3/18 食と農のプロジェクトをすすめる会
1/26~30 実習受け入れ(大阪 YMCA 国際専門学校)	3/18~20 実習受け入れ(大阪 YMCA 国際専門学校)
1/30 Tさん IFP(個人将来計画)会議	3/19 執行委員会
2/2 執行委員会/南部交流センター見学	3/20 Nさんケース会議/WA ロン/障大連大阪市ブロック会議
2/3 見学受け入れ(なちゅららヒーリングスタジオ)	3/20 Tさんケース会議
2/4 Pさんケア会議	3/23 理事会/事業所ネットワーク全体会議第1グループ会議
2/5 生野区自立支援訪問系事業者連絡会世話人会 職員交換研修実施(地域共生ケア生野推進委員会)	3/23 実習受け入れ(大阪 YMCA 国際専門学校)
2/4~6 赤倉スキー旅行	3/24 作業所ミーティング
2/6 どんどん・職員懇談会/グループホームスタッフ全体会議	3/25 Wさんケース会議
2/7 食と農のプロジェクトイベント(もちつき)【松野農園】	3/27 障大連運営委員会/地域共生ケア生野推進委員会
2/8 内部研修(パワーアップ会議①)	3/29 舍利っ寺セール出店
2/10 Oさん IFP(個人将来計画)会議 内部研修(発達障害勉強会)	3/30 Kさん応援会議/入学入園おめでとう会【みらくるちっぷ】
2/12 生野区自立支援訪問系事業者連絡会	4/2 生野区自立支援訪問系事業者連絡会世話人会
2/13 和楽苦荘ケア会議/内部研修(発達障害勉強会)	4/3 作業所花見
2/13~15 被災地(南相馬)支援職員研修	4/8 執行委員会/生野区グループホーム連絡会
2/15 内部研修(パワーアップ会議②)	4/9 二者会議/生野区自立支援訪問系事業者連絡会
2/16 Kさん応援会議	4/10 グループホームスタッフ全体会議
2/17 職員交換研修(地域共生ケア生野推進委員会)	4/15 Yさんケア会議/食と農のプロジェクトをすすめる会
2/18 食と農のプロジェクトをすすめる会 Yさん IFP(個人将来計画)会議	4/16 どんどん学習会
生野区グループホーム連絡会	4/21 内部研修(発達障害勉強会)
	4/22 生野区学童期の子ども支援連絡会
	4/24 障大連運営委員会/地域共生ケア生野推進委員会役員会
	4/23 合同新人職員研修
	4/24 障大連運営委員会
	4/25 障大連連絡会
	4/27 事業所ネットワーク全体会議第1グループ会議

一九八四年八月二十日 第三種郵便物認可 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行 発行人 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町二・二 東興ビル4階 頒価百円

へんしゅうこうし  
編集後記  
ついにあの男が作業所に帰ってくる…!!  
え!?あの人があグループホームへ…!?  
そして動き出す新拠点プロジェクト  
出発のなかまの会 36年目。乞御期待。  
(コウハイ・O)

編集人  
特定非営利活動法人 出発のなかまの会  
〒544-0011  
大阪市生野区田島1-10-30たびだち共働作業所内  
TEL 06-6758-6641  
FAX 06-6758-6749  
郵便振替 00910-9-306080  
(特定非営利活動法人 出発のなかまの会)  
Eメール infotabidati@oct.zaq.ne.jp  
ホームページ http://www.oct.zaq.ne.jp/tabidati 700部